



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2016

ROUND5 Buddh International Circuit , India

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#1)
田中 歩(#82)
- 開催日/サーキット : 2016年9月29日(木)~10月2日(日)
Buddh International Circuit (New delhi India)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1 3位 レース2 リタイヤ
田中 歩 レース1 10位 レース2 リタイヤ

2016アジアロードレースチャンピオンシップ(ARRC)も残すところ2戦。第5戦はインド・ブッダ インターナショナルサーキットで開催された。

TRICK STAR Racing は、初めて訪れるインド。水・食事・交通・その他多くの事柄に注意しないと、それぞれレースを台無しにしてしまうと各方面からアドバイスを頂き、サーキット入りした。

サーキットは、F1を開催しただけあって、近代的で綺麗な設備。コースレイアウトもストレートが長く、コース幅が広く攻めがいがあがるが、事前テストが行えずライダーのスキルが問われる。

【10月1日(土) 公式予選】

Qualify 9:00~9:30 天候: 晴れ コース: ドライ

前日までの公式練習で、良い流れでスケジュールを熟していた。朝1番に公式予選が開始され、あえて先頭からコースインをせず、中盤からコースインを行った。案の定ピットアウトラップは通常より遅く、各車ライバル達の動向を探り、速いライダーの後ろにつけようとしていた。

山本剛大選手は、計測1周目でポジション7。計測2周目にはまだグループが一塊で走行しており、ポジション15。3周目に2分16秒664を記録しポジション4にアップする。その後も前後を見極めながら走行し、残り時間も少なくなってきた際に、2分15秒927を記録。ポジション3に上がる。翌周は一度グループ内でタイムアタックに入っているライダーを先行させ、その翌周に2分15秒738とタイムを詰めるが、ライバルは更にタイプアップしており、ポジション4に終わる。

田中歩選手は山本選手より早くからタイムを刻んでおり、計測1周目にポジション3。計測3周目に2分16秒552を記録し再度ポジション3に。その後もグループで走行しておりポジション6まで下がっていたが、計測8周目にタイムアップを狙い山本選手とランデブー走行。山本選手は15秒927を記録するが、田中選手が帰ってこない。レコードラインを外してスロー走行していたライダーが、山本選手を見つけるやいなや、後続を確認もせず、いきなり山本選手の真後ろに着けようとしてラインを振ってきた。

これには、田中選手もどうしようもなく接触してしまい転倒。とても危険な行為だ。

幸い田中選手には怪我が無かった。決勝に期待する。

【10月1日(土) 決勝レース1】

Final 1 13:30～ 9LAP

天候： 晴れ 路面：ドライ

予選で転倒してしまった田中選手のマシンが問題なく修復されていることに安堵し、レースを迎える。

山本剛大選手、スタート後の1コーナーでのポジション争いは無理をせず6番手で進入する。裏ストレートでは10番手を走行。2周目にレース序盤でのファーストラップを記録し8番手にポジションアップ。3周目・4周目はライバル達の動向を後方から観察していた。5周目の裏ストレートで7番手に上がり、6周目には6番手。徐々に仕掛けていく。7周目の1コーナーまでに5番手に上がり、裏ストレートでは一気にトップに上がる。8周目の裏ストレートでもトップを走行するが、ラストラップは4番手で入る。ラストラップの裏ストレートでは5番手で走行し、最終コーナー進入で前車のインを刺し、結果3位でゴールする。

田中歩選手、スタート後の1コーナーは10番手で進入。田中選手も焦らずライバル達の無理なポジション争いに加わらず、冷静に判断しながらレースを進める。2・3・4周目は9番手で走行し、ライバルの動向を観察している。5周目裏ストレートで1台を抜くが、7周目の裏ストレートでは10番手までポジションダウン。残り2周、8周目から仕掛けていく。8周目裏ストレートで7番手から5番手に上がり、4コーナーから5コーナーまでに1台、さらに5コーナー進入で1台を抜き3番手にポジションアップ。ラストラップは3番手で入り、裏ストレートではトップに上がる。4コーナーで2番手に下がり、最終コーナー進入で仕掛けていくが、シフトダウンミスをしてしまい最終コーナー立ち上がりでスピードに乗らず10位でゴールする。



【10月2日(日) 決勝レース2】

Final 2 12:30～ 9LAP

昨日の決勝レース1の結果を踏まえて、決勝レース2に臨んだ。

山本剛大選手、スタート後1コーナーは7番手で通過したが、3コーナーで1台を抜き、4コーナーで1台、更に5コーナーでも1台を抜き3番手に上がり、2周目に入る。そして裏ストレートでトップに躍り出る。このレースは積極的に前に出ていく。4コーナーで2番手になるが10コーナーでトップを奪う。3周目に入った直後、1～2コーナーでコースアウトしてしまう。転倒は免れたが13番手までポジションダウンして戻ってくる。4周目、裏ストレートで8番手、更に1台抜き最終コーナー進入で2台のインを刺し5番手まで挽回する。5周目、裏ストレートで各車が加速していく映像の中に、明らかに加速せず走行ラインを外す山本選手の姿が見えた。そのままスロー走行でピットインしリタイヤとなった。ハーネスのトラブルが原因だった。

田中歩選手は、スタート後1コーナー9番手で進入。4コーナーでは10番手で通過。2周目裏ストレートで9番手、3周目に入るころには8番手にポジションアップし、確実に前とのギャップを詰めていく。そして4周目の裏ストレートでは6番手に上がるが、11コーナーで転倒してしまう。フロントタイヤを縁石に引っ掛けてしまい転倒してしまった。残念ながらそのままりタイヤとなる。



【ライダー 山本剛大 選手 コメント】

予選 4位

前日のフリー走行までは単独で走り決勝に向けてのマシン作りに集中していたためタイムを狙った集団走行はウィークで初になった。10秒ペナルティー（自身のベストラップより10秒以上スロー走行を行うとペナルティが課せられる）があるなかでタイムを出すポジション選びが難しくなかなかうまくアタックできなかったがそこは割り切ってアタックして2分15秒7で4番グリッドを獲得した。

レース1 3位

スタートから1周目に順位を落としてしまった。

普段ならばすぐにストレートでスリップストリームで前に出れるのですがインドのウィークはウィーク通してマシンが走っておらずレース前半なかなか順位を上げられずにいた。

幸いNinja250の弱点であるブレーキングを克服するために単独走行でマシン作りをしていたので場所は限られてはいるがブレーキで勝負できるポイントがあったのでそのポイントで少しずつ順位を上げて行きラスト3周でトップにたった。追い上げながら最終コーナーでの勝負をするためのブレーキポイント、ラインなどを探りラストバトルに備えていった。

最終ラップにミスが続いてしまいコース後半を6番手で通過してしまい実質優勝は厳しくなってしまった。S字コーナーの進入で強引に刺しにいき5位に浮上し最終コーナー1つ前も5位で通過最終コーナーにはかなり自信があったので3位狙いの2台抜きを決行。予定通り最終コーナー進入のブレーキングで2台刺し3位でチェッカーを受けた。最終ラップでのミスが響き優勝は逃してしまいましたが最終コーナーでの強さに確信が持てレース2は勝てるという手ごたえが掴めたレースでした。

レース2 マシントラブルによりリタイヤ

スタートから1周目はうまくいきレース序盤にトップに立つことができた。マシンもレース1よりは走っていてレースを有利に進める材料が揃っていました。

トップに立ったあとに1コーナーでコースアウトしてしまい集団の後方(10位以下)まで下がってしまいましたが1周で4位まで挽回して集団のトップ争いまで追いついたところで3コーナーでエンジンがスローダウンしてしまいました。すぐに1気筒死んでいることに気づきピットインしリタイヤという結果でレースを終了してしまいました。レース後トラブルの原因は電気系のトラブルだということがわかりました。

今回のレースでノーポイントで終わりライバルが優勝してしまったので最終戦を待たずしてライバルのチャンピオンが確定してしまいました。マシントラブルという形でチャンピオンシップにケリがついてしまいとても残念でしたがこれもレースなので仕方がないことです。自分もチームのみんなも精一杯戦った結果なのです。

今シーズンは開幕戦で大きく躓いてしまい開幕から3レースでライバルに50ポイント差を付けられるというとても厳しいシリーズでした。しかしチームがとても懸命に働いてくれたおかげで惨敗だった開幕戦の次のラウンドであるタイでは優勝を飾るまでにマシンを仕上げてくれました。そこから自分達のチャンピオンシップを争う厳しい戦いが始まりました。この戦いをいつも力強く支えてくれたチームのみんなにはとても感謝しています。

次のタイラウンドで今シーズンが終了します。自分がライダーとしてできる最大の恩返しである優勝という形で2016年シリーズを締めくくられるように精一杯準備していきますので最後の最後まで応援よろしくをお願いします！！

【ライダー 田中歩 選手 コメント】

今回のインドラウンドはアジア選手権で初開催される初めてのサーキットでした。金曜日の練習一本目から好タイムを出すことが出来ました。その日はタイムは伸びなかったものの自分好みの車両に合わせて行く事が出来ました。

公式予選

予選は開始してすぐタイムを出す予定でいました。スローペースで走る車両もありなかなか良いラップタイムをマークできず上位ライダーがアタックをかけるのを待っていたところスローペースしていた車両が急に自分のレコードラインに入り、接触転倒してしまいました。その後多くのライダーがタイムを更新し9番グリッドで予選を終えました。

決勝レース1

3列目スタートからスタートはあまりうまく行かず後方に埋もれてしまいました。レース中盤まではトップ集団の1番後ろでしたがライバル勢が失速したところを見てパスしていきました。最終ラップのバックストレート手前のヘアピンで3番手にあがりストレートエンドでトップに立つことができ、その後パスされ3位争いで最終コーナーへ。普段2速を使うところ1速に入ってしまう転倒しそうになりコースアウトしてしまい10位。

決勝レース2

レース2はレース1の反省点を活かそうと走りましたがトップ集団で走行中に終盤セクションのシケインでイン側の縁石に乗ってしまいそのままスリップダウンしリタイヤという結果となってしまいました。まだ序盤でやってはいけない転倒で、悔しいですし申し訳ない気持ちでいっぱいです。

最後にチームをはじめスポンサー様、応援して頂いる皆さまいつも有難うございます。最終戦タイではもう一度気持ちを切り替え頑張りますので応援宜しくお願い致します。

田中 歩

【監督 鶴田竜二 コメント】

ARRC R5インド AP250クラス

決勝レース1

山本剛大選手 3位
田中歩 選手 10位

山本剛大選手・田中歩選手、両選手 後半からスパートを掛けて最終ラップまでトップ争いをしていましたが、今一步及ばず優勝を飾る事が出来ませんでした。

決勝レース2

山本剛大選手 マシントラブルによりリタイヤ
田中歩 選手 転倒 リタイヤ

両選手ともリタイヤとなる考えられない結果となってしまいました。

今回は期待に応える結果が出せなくてすみませんでした。

レース1よりマシンのセットアップやエンジンの調子も良かっただけに今回のレースはとても悔しく、受け入れ難い結果です。

しかし、ライダーもメカニックも一生懸命やった結果です。手は抜いていません。

こうなった結果は必ず原因があります。それをチームとして、しっかり検証し克服し次戦に繋げていきます。

我々チームを応援して頂きまし皆様、有難うございました。
次戦、ARRC 最終戦R6タイ、ご期待ください。

チーム代表 鶴田竜二